

第11回日本気象学会夏期特別セミナー（若手会夏の学校）の報告

第11回若手会夏の学校実行委員会*

第11回日本気象学会夏期特別セミナー（若手会夏の学校）は、1999年7月17日（土）から19日（月）まで2泊3日の日程で、三重県立鈴鹿青少年センターにおいて、名古屋大学が主管となって開催されました。このセミナーには、若手を中心に98名の参加がありました。その内の19名は学部学生で、参加者の若年化が目立ちました。今回のセミナーでは、招待講演、一般講演、ポスターセッションなどが行われ、それぞれ、学会とは違った雰囲気の中で、講演や議論が展開されました。講演して頂いた方は、以下のとおりです。

●招待講演（1人約1時間）

- 熊澤峰夫(名古屋大学名誉教授)：21世紀を生きる科学者と科学のために
- 余田成男(京都大学助教授)：カオスと気象
- 林田佐智子(奈良女子大学助教授)：人工衛星から見た大気組成変動
- 中村健治(名古屋大学大気水圏科学研究所教授)：熱帯降雨観測衛星 (TRMM) による降雨の観測

●一般講演（1人約50分）

- 佐藤尚毅(東京大学気候システム研究センター)：地球温暖化による梅雨前線と夏の天候の変化～日本の夏はどう変わるのか？～
- 一柳錦平(科学技術庁防災科学技術研究所)：Stable Isotope Hydro-meteorology のススメ
- 小林修二(ウェザーニューズ)：会社で働くとは (WNI 編)
- 野原大輔(筑波大学地球科学研究科)：福島県中山風

* 若月泰孝, 桑原徹也, 藤森俊雄, 田中泰宙, 香川雅子, 佐野成人, 出世ゆかり, 塚本英士, 物江大輔, 清水祐樹, 広瀬正史, 遠藤洋和, 芝川晃一, 藤川恭司, 斉藤伸治(名古屋大学大気水圏科学研究所)。

穴の成因に関する研究～去年の夏の学校の一般講演の続き～

田中泰宙(名古屋大学大気水圏科学研究所)：化学輸送モデルによる物質輸送と気候への影響の研究

日下博幸(電力中央研究所)：過去85年間の関東地方の夏日の変化について

●ポスターセッション

発表件数 28

発表時間 30～60分 (コアタイム30分)

今回の夏の学校では、多くの方に講演をしていただき、活発な議論が展開されました。招待講演では、地球流体、リモートセンシング、オゾンに関連して、最先端の興味ある研究についてわかりやすく講演して頂きました。また、熊澤先生には、地球科学の見地から、科学者にとっての学問のあり方について、意義深いお話をして頂きました。一般講演やポスターセッションにおいても、最新の研究成果を中心とした発表に多くの議論が交わされました。スケジュール的に多少ゆとり不足ではありましたが、その分内容の濃いセミナーになったように思われます。

数年前まで、このセミナーは若手研究者同士が、自分たちの研究について、あるいはその方向性について議論し合う場として位置付けられてきました。近年、大学院生の増加等の影響もあって、学生を中心とした参加者が増えてきました。しかし、それに対してセミナーで講演、発表を希望する人が増えているわけではありません。そこで、今回は招待講演を増やすなど、より基礎的な議論や勉強の場あるいは興味の幅を広げる場として、セミナーの方向性を位置付けました。2000年の日本気象学会夏期特別セミナーは、北海道大学の主管で行われます。今後、このセミナーをどのような場にしていくか、その方向性について多少の参考になればと思います。また、参加者はよりいっそう積極的

に議論する姿勢で、このセミナーに臨むべきだと思います。

最後に、今回の特別セミナーを開催するにあたって、

日本気象学会講演企画委員会から援助を頂きました。これとあわせて、講演を頂いた方々、ご協力頂きました関係各位に対して深く感謝申し上げます。



宇宙インフラストラクチャワークショップ

主催：宇宙インフラストラクチャ研究会

日時：平成12年5月18日（木）～19日（金）

午前10：00～午後5：00

場所：つくば国際会議場 エポカル (<http://www.epochal.or.jp>)

定員：300名

参加：自由（無料）

*但し、18日夜開催予定の「交流会」については会費制（参加費1,000円）となります。

目的：

広く将来の宇宙開発のビジョンについて議論するために、文部省宇宙科学研究所、郵政省通信総合研究所、科学技術庁航空宇宙技術研究所、宇宙開発事業団及びその他の研究機関、大学、企業等の有志により形成する、宇宙インフラストラクチャ研究会において検討した将来シナリオ案を報告するとともに、日本の宇宙開発ビジョンに関して産官学各分野の意見を交換する。

プログラムの概要：

① 基調講演

欧州における宇宙開発戦略（ESA からの招待を予

定。）

日本の科学技術政策と宇宙開発（国内有識者の招待を予定。）

② 将来の宇宙開発のシナリオ案を報告

③ 各重要技術における戦略を紹介

④ パネルディスカッション

⑤ 交流会（18日夜開催予定/会費制/参加費1,000円）

プログラムの詳細は、順次下記のホームページに掲載します。

<http://hope.tksn.nasda.go.jp/infra/>

お問い合わせ先

105-0013 東京都港区浜松町1-29-6

浜松町セントラルビル8F

Tel：03-3459-1654 Fax：03-5402-7521

（財）日本宇宙フォーラム

調査研究部 国際情報担当グループ

小沢または安藤

email：eandoh@jsforum.or.jp